

令和7年度 第1回 男女共同参画及び多様な性の尊重に関する審議会 議事録

- 1 日 時 令和7年5月23日（金）午後2時00分～午後4時00分
- 2 場 所 横須賀市役所 消防局庁舎4階 災害対策本部室
- 3 出席者
- [委員] 9人  
志村委員長、飯田委員、石井委員、石藏委員、井田委員、岡崎委員  
川村委員、櫻井委員、三田委員
- [事務局] 5人  
市長室 倉林室長  
市長室人権・ダイバーシティ推進課 杉山課長、千葉課長補佐、川井主任、川上
- [傍聴] なし
- 4 報告事項 (1) 令和7年度 審議内容  
(2) 令和7年度 ジェンダー平等推進事業概要  
デュオよこすか来館者数、図書貸出数、相談件数の推移  
(3) 横須賀市役所の管理職等に占める女性割合
- 5 審議事項 市民等アンケート調査（修正案）

6 議 事

| 開 会        |                                 |
|------------|---------------------------------|
| 事務局        | 開会                              |
| 市長室長       | 挨拶                              |
| ・ 審議会成立の報告 |                                 |
| ・ 本日の資料の確認 |                                 |
| 審議事項       |                                 |
| 事務局        | (1) 令和7年度 審議内容について報告<br>質問・意見なし |

|     |  |
|-----|--|
| 事務局 | (2) 令和7年度 ジェンダー平等推進事業概要について報告  |
| 委員  | 6月1日に開催予定のデュオまつり(ふれあいフェスティバル)について、楽しみに参加させていただきます。会場の場所を教えてください。   |
| 事務局 | 会場は総合福祉会館5階のデュオよこすかです。エレベーターを降りて左手2本目、ガラス張りの入口が目印です。ご参加お待ちしております。  |
| 委員長 | 2ページ裏面の市役所のモデル事業者の取り組みについて質問します。給与のシミュレーションなど、以前よりも取り組みが増えていることに感心しました。この取り組みの成果や結果は、市民向けに公表したり、市内事業所に提示したりする機会はあるのでしょうか。  |
| 事務局 | 育児休業の取得状況については、人事課ホームページで毎年公表しています。  |
| 委員長 | シミュレーションシートなどの取り組みを民間事業所に紹介する機会は特に設けていないのでしょうか。  |
| 事務局 | 民間企業への紹介については、現在は行っていません。市職員向けのシミュレーションであり、民間とは内容が異なるため、今のところそのような取り組みは進めていません。  |
| 委員長 | 約20年前、横須賀市の第2次男女共同参画プランの頃から、家庭や学校、日常生活だけでなく、事業所での取り組みが非常に重要であると言われてきました。しかし、市が直接企業へアプローチするのは難しい面がありました。最近は商工会議所などを通じて企業への働きかけがしやすくなってきましたが、モデル事業所の取り組みが生まれた背景にも、企業への支援ができないかという課題意識がありました。市役所内だけではなく、中小企業をはじめとした民間にも「こうした取り組みやその成果がある」と情報発信できると、広がりが出て良いのではないかと考えています。<br>一方で、市役所という職場の特性上、民間に同様の内容を紹介すると抵抗や誤解を招く可能性があることも懸念されます。それでも、市が率先して好事例を示すことで、企業にも良い影響が及ぶはずで、せつかくの良い取り組みですので、今後専門家とも相談し、より広く展開できる可能性を探っていただければと思います。 |
| 事務局 | デュオよこすか来館者数、図書貸出数、相談件数の推移について報告  |
| 委員  | 2点お伺いします。1点目は、以前審議会で議論があった「デュオよこすか」という名称のその後の評判についてです。何かご意見や反響があれば教えてください。<br>2点目は、令和2年度から来館者数を性別で分けず、人数のみ集計している件について、運営上問題がないか、あるいは何か課題が生じていないかお聞きしたいです。  |
| 事務局 | まず、「デュオよこすか」という名称の評判についてですが、現時点ではそのネーミングに対して特段のご意見は寄せられていません。まだ知名度が十分でないため、今後さまざまな機会を通じて広報を進めていきたいと考えています。今後、新たなご意見が寄せられた際は、参考にしながら必要に応じて検討する予定です。<br>来館者数の集計については、現在、性別を分けていないことによる運営上の問題は特に発生していません。ただし、今後事業の運営や、「デュオよこすか」の名称変更などを検討する際、必要があれば男女別の利用者統計を新たに取ることも検討したいと考えています。  |

|     |   |
|-----|---|
| 委員  | 2ページ目の令和5年の相談件数についてお聞きします。件数が約35%増加した後、今回は若干減少していますが、令和5年度が一時的に大きく増えたと解釈してよいでしょうか。  |
| 事務局 | 推測にはなりますが、令和5年度は相談件数が大きく増加し、これがピークだった可能性もあります。  |
| 委員  | 同じ方が複数回相談された場合、件数のカウントはどうなっていますか。   |
| 事務局 | 同じ内容でも複数回相談があった場合は、その回数分を個別にカウントしています。  |
| 事務局 | 令和5年度の相談件数が急増した要因について、相談員からの報告では、芸能人の自殺など社会的に心が苦しくなる出来事が起こると、その影響で相談件数が増える傾向があるとのこと。世の中の動向が相談件数に影響していることもあり、その年ごとの社会情勢を反映した数字になっていると思います。相談が増えることで支援につながる方も多く、事業の意義をあらためて感じています。  |
| 委員長 | 補足で質問します。かつては分科会や小委員会で来館者数の推移を詳細に検討していました。1ページ下部のグラフでは右肩上がりに見えますが、実際にはコロナ禍の2、3年間で大きく減少しています。本来は5年分のデータを記載することになっていますが、可能であれば令和元年やその前の実績と比較し、コロナ前の水準に戻っているのか、それともまだ少ないのか教えてください。難しい場合は無理に提示しなくても結構です。  |
| 事務局 | コロナ前の令和元年は7,800～8,000人ほどの利用がありましたが、コロナ禍により利用制限があったため、令和5年度には十分に回復しませんでした。利用の減少要因として、コロナ禍で活動をやめてしまった団体が複数あったことが挙げられます。そのため、利用されなくなった団体へヒアリングも行っています。利用促進のため、昨年度後半からはテーブルの配置や形を工夫し、1～2人で利用しやすいよう調整しました。その効果もあり、年度後半から利用者数が伸びており、令和7年度4～5月も昨年度より多くなっています。今年度はさらなる利用者数増を期待しています。                            |
| 委員長 | 部会長を務めていた当時を振り返りましたが、利用者数については改めて聞いてみないと思いつけなかったため、大変参考になりました。営利施設ではないので数値に過度にこだわる必要はないかもしれませんが、せっかくの施設なので多くの方に利用してもらいたいと思います。以前は、デュオよこすかの部会があり、運営や利用者増加について具体的な議論を行っていました。現在はそのような部会がなくなったので、今後は委員の皆さんに周囲からの意見や改善点、市民の反応などをお寄せいただき、よりよい運営に活かされると良いと考えています。必要があれば現地での会議や視察の機会も検討していきたいと思えます。ご協力をお願いします。 |
| 委員  | 先ほど名称について話題がありましたが、正式名称は「横須賀市男女共同参画および多様な性を尊重する社会の推進施設」に変更されました。一方で、「デュオよこすか」という愛称については、変更の余地があるのではと感じています。「デュオ」という言葉はラテン語で「2つ」「ペア」を意味し、従来の男女二元論を想起させます。しかし、現在は多様な性も前提とする時代であり、もっとその多様性が想像できる施設名に変更した方が、来場者も施設の意義を理解しやすく、そこにたどり着きたい人がたどり着ける、目的に合った名称になるのではないかと考えています。                                   |

|     |   |
|-----|---|
| 委員長 | <p>貴重なご意見をありがとうございます。名称変更は重要なテーマですので、他の委員の皆さんのご意見も伺いたいと思います。「デュオ」という名称は使い慣れた一方で、「二つ」というイメージが基調になっている点もご指摘の通りです。みなさんのあり方論や感想もぜひお聞かせください。また、類似施設で名称変更を行った事例について情報があれば、ご紹介いただけると助かります。委員、何かご存じでしたら教えていただけますか。</p>  |
| 委員  | <p>今のところ、名称変更に関する具体的な事例は思い浮かびませんが、先ほどのお話を受けて感じたことをお伝えします。「デュオよこすか」の名称については、市民から特段の声が上がっている様子はなく、また、まだ施設自体が十分に知られていない印象もあります。しかし、多様な性を意識した時、見直す余地があるのではと考えます。特に重要だと思うのは、「たどり着きたい人がきちんとたどり着ける施設名」を持つことです。この視点は本当に大切だと感じました。現状の「デュオよこすか」という名前が必ずしも多くの市民に浸透しているとは言えず、今後さらに周知・理解を促し、利用しやすい施設として広げていく必要があると考えます。以前から活動されていた女性団体にとっては「デュオ」という名前がシンボリックな意味を持っていたことも聞いていますが、今は社会全体が多様性にシフトしている時代ですので、新たな視点での意見交換や名称検討の機会があることも必要だと感じました。</p> |
| 委員長 | <p>名称変更の手続きについて質問します。条例改正など議会の承認が必要な場合があるかと思いますが、「デュオよこすか」は愛称となった現状では、議会の承認は必要ないという理解でよいのでしょうか。</p>   |
| 事務局 | <p>今回の4月1日の条例改正で、正式名称は「横須賀市男女共同参画および多様な性を尊重する社会推進施設」に変更され、「デュオよこすか」は愛称となりました。そのため、愛称変更には議会の承認は不要です。</p>   |
| 委員長 | <p>「デュオよこすか」は長く親しまれてきた名前ですが、施設のあり方とともに愛称についても改めて検討する機会があっても良いのではないかと思います。逆に、みんなで良いアイデアを出し合い、納得できる愛称が見つかった場合に変更を考えると順番でも良いのではないかと感じています。このようなプロセスは難しくもありますが、皆さんが親しみを持ってくれる名前を考えること自体に大きな意味があると思います。まずは「変えるべきだ」と決めて進めるのではなく、もし素敵な案が出たら「変えてみてもいいのでは」という方向性の方がよいのではないのでしょうか。もし、愛称変更の進め方やアイデア募集についてご意見があれば、ぜひお聞かせください。それにより事務局も今後の進め方を考えやすくなると思います。</p>  |
| 委員  | <p>市民の立場から考えると、各施設の愛称が本当にどのくらい浸透しているのか疑問に感じます。私たちには思い入れのある名称かもしれませんが、一般市民から見ると「デュオ」と聞いてもどこにあるのかわからないことが多いのではないのでしょうか。実際、市の施設名を詳しく知っている人は少ないと思います。「たどり着きたい人がたどり着ける」という意見にはとても共感しました。今回の議論を聞いて、名称を変えることも良い選択肢なのではと感じました。</p>  |
| 委員長 | <p>さまざまな意見が出てきているのは良いことだと思います。今後も多くの声をお寄せいただければと思います。これまで親しまれてきた名前を変更する場合、一度に急いで決めてしまうのは難しいと思います。市民から広く名前の公募を行い、市民の声を反映した施設名にすることで、たどり着きやすく説明しやすくなるのではないのでしょうか。また、公募</p>  |

|            |   |
|------------|---|
|            | <p>自体が施設の存在を知ってもらいきっかけにもなりますし、子どもや若い世代からも応募を募ることで、より幅広い意見やアイデアが集まると思います。このようなご意見を踏まえて、次回の会議では名称公募の可能性や具体的な進め方について、まとめや意見交換の機会を設けてはいかがでしょうか。皆さんにも実際に施設を訪れていただき、「この場所につけるならどんな名前が良いか」「たどり着きやすい名称とは何か」をぜひ考えてきてください。実際には立地の課題もありますが、名前がその問題をカバーするくらい親しみやすいものになるよう意識したいです。</p> <p>この件については、今後の検討事項として次回に引き継いでいきたいと思います。なお、事業概要および相談室についての報告は以上とし、名称については議論を継続してまいります。</p>  |
| 事務局<br>委員長 | <p>(3) 横須賀市役所の管理職等に占める女性割合について報告</p> <p>「速報値」という表記についてですが、今年度の初めの段階の数字を現状で出しているという意味でしょうか。</p>  |
| 事務局        | <p>この数値は人事課から提供を受けているもので、まだ正式に確定をしていない数値ということで速報値としてますが、概ねこの数値で変わりないと思います。</p>  |
| 委員         | <p>1 ページ目の課長級の女性登用目標 20%に対して、ここ7年間で3人しか増えていない現状から、根本的な対策が必要なのではと感じました。この向上はやはり難しいのでしょうか。</p>  |
| 事務局        | <p>人事の根幹に関わることなので我々も承知してないところもあるんですが、令和4年度にひと桁9.4%、このとき県内19市で多分19番目でした。私達も総務部もこれは課題として大きく捉えて意見交換も何とか数重ねて、この令和4年度から女性職員の登用については仕組みを少し変えながら、登用しやすい仕組みにはしているので、まずその効果が5年度6年度少し増えたのは、その登用方法を総務部の方でも変更いたしましたして、働きかけも各部局に積極的に行った効果が少しではあるんですが、5年度6年度に出ているということです。</p> <p>一方で、課長になるには段階を踏んで色を積み上げていくわけですけども、この数年積極的に女性長登用したために候補であった課長補佐の人数が十分でなかったことが今年度4人ととどまったことの影響と考えられましたので、この候補者を増やすことが課長を増やすことに繋がるということで今年は課長補佐を積極的に増やしているということで、これが、将来課長が増えていくことに繋がると考えています。</p> |
| 委員         | <p>この表を見るたびに思うのですが、割合の数字だけでなく、実際にその役職に就かれた方の満足度や幸福度についても知りたいと感じています。割合だけでなく、就任したことで幸せになった、やりがいを感じたといった実際の声が分かるとより良いと思います。</p>   |
| 委員長        | <p>「幸せ度」を把握するのはなかなか難しいですが、アンケートなどで役職承認者の声を集めた事例があれば公開しても良さそうですね。今のところ、承認後の満足度を確認している取り組みは把握していませんが、ご意見を踏まえ、今後はそういった声を聞くことも大切だと思いました。こうした実際の感想が集まれば、例えば「大変でした」や「よかった」という生の声が励みにもなりますし、貴重な情報になると考えます。どの部署が担当すべきかは今後検討が必要ですが、ぜひ取り入れていただきたいです。</p> <p>今回の資料で4ページ目にある「女性職員割合の推移」や「担当者級」と「正規職員」の違いについて少し分かりづらさがありました。この区別について説明していただけます</p>   |

|     |   |
|-----|---|
|     | か。  |
| 事務局 | 担当者級は職員の階級で言えば、部長級、課長級、係長級、担当者級と大きく4段階にわかれているうちの、担当者級は1番入庁年数が短い職員のことを担当者級といいます。5は全体の、全ての職員を足したものが、この正規職員全体ということです。担当者級は役職がない職員になります。  |
| 委員長 | つまり、男女の職員数に差がある以上、課長級での比率もその母数に応じて按分して評価すべきではないかと感じています。比率が同じであれば問題ありませんが、たとえば全体の女性職員が32%いれば、理想的には課長級も32%を目標とするのが本来の姿だと思います。今は課長級女性の目標が20%、実際は11.3%となっています。職員全体に占める女性比率と比較すると、現状はまだ低いわけです。評価する際の解釈として、母数に着目して見る必要があるのではないかと思います。単純なパーセンテージより、女性職員全体に対する課長級女性職員の到達率として見れば、今の努力はもっと高く評価できる面もあるのではないかと感じます。  |
| 事務局 | 11.3%は課長級以上の職員の中の女性の割合です。本来であれば、職員の男女比に近い数字が理想なのですが、職員で3割以上女性がいる中で、課長級以上での女性の割合は約11.3%と、男女比と比べて大きく差があるのが現状です。   |
| 委員長 | 委員会や審議会の女性比率については、ここ5年10年議論が繰り返されているものの、実際には大きな変化が見られません。もっとドラスティックに進めても問題ないと思いますが、現実には推薦される方の多くが男性であることや、役職が割り当てられる際にどうしても男性が選ばれがちという背景があるようです。  |
| 事務局 | 今回、複数の審議会でヒアリングを行ったところ、「あて職」の場合は特に男性の割合が高いという結果でした。1番登用が難しいのは医師が多い部門です。福祉や健康の部門では医師が委員になっているのですが、各専門分野で女性医師自体が少ないため女性委員の登用が難しい現状もあります。また、市民公募委員がいない附属機関の場合、各団体からの推薦で委員が選ばれますが、女性の推薦がなかなか得られない現状があります。   |
| 事務局 | <b>3 審議事項 市民等アンケート調査（修正案）について説明</b>   |
| 委員長 | 今日の委員会・審議会で特に決定・確定しなければならない事項はありません。ただし、この市民向けアンケートの実施時期を考えると、正式な審議会で意見を述べられるのは今日が最後の機会となります。会議終了後もご意見を提出することは可能ですが、できるだけ今日、この場で皆さんのご意見をしっかりと伺いたいと思います。前回の意見をもとにアンケートの5-1の設問などが修正され、内容や表現、質問数の面でいろいろと改善が見られると感じました。ただ、質問数が多いのではないかと不安や、実際に回答してみて負担感がどうかといった意見も想定されます。「質問が61問ある」という印象ですが、選択式の設問が多いため、丸を付けるだけで負担はそれほどでもないという見方もあります。皆さんには市民や専門家の目線から率直なご感想やご意見をいただきたいと思います。 |
| 委員  | フォントについてですが、設問文がゴシック体、選択肢が明朝体と混在していることが気になりました。この使い分けには何か理由がありますか。  |
| 事務局 | 今回の調査票作成では、見やすさを意識してデザインしました。設問と選択肢にメリハリ  |

|     |  |
|-----|--|
|     | を持たせるため、設問はゴシック体、選択肢は明朝体としました。また、ユニバーサルデザインも意識し、文字の大きさもできるだけ大きくしています。  |
| 委員  | テストのように感じて緊張してしまいそうだったため、質問しました。あと、自治会へのアンケートは今回実施しないという認識でよろしいでしょうか。  |
| 事務局 | はい、自治会対象のアンケートは今回行いません。  |
| 委員  | 7 ページ目の問 13 についてですが、設問では「男性が家事育児介護などの家庭生活や地域活動を」と記載されていますが、選択肢には地域活動に直接関連する内容が見当たりません。5 番目の「多様な働き方を普及することで仕事以外の時間をより多く持てるようにする」が該当しそうですが、具体的に PTA や地域活動参加のための休暇取得、ボランティア休暇制度の導入など、地域活動に直結する選択肢がないように思います。もし設問で地域活動に触れるのであれば、これに対応する具体的な選択肢を加えるべきではないでしょうか。   |
| 事務局 | ご指摘いただいた通り、地域活動や PTA、ボランティア等について設問で触れながら、選択肢にそれを明確に表すものはありません。「…など」と記載していますが、分かりづらい印象を与えるため、今後具体的な選択肢の追加を検討します。ご意見ありがとうございます。  |
| 委員  | 2 点あります。まず小さなことですが、市民アンケート 4 ページの問 5 で「現在結婚（事実婚を含む）している方だけお答えください」と記載があります。他の設問ではこの但し書きが使われていないので、表記の統一が必要だと感じました。<br>もう 1 点は、市民・職員・事業所いずれのアンケートにも共通する点です。ハラスメントやしんどい経験について尋ねる項目が含まれていますが、このような内容を含む場合、アンケート冒頭で「暴力などに関する質問が含まれます」といった注意喚起や安全のためのアナウンスを入れるのが一般的かどうか、見解をお聞きしたいです。  |
| 事務局 | 表記の統一について対応を検討します。アンケートの冒頭で注意喚起や安全に関するアナウンスを入れる点については、確かに市民アンケートでは答えづらい内容やセンシティブな設問も含まれているため、ご指摘の通り重要な配慮だと認識しました。現時点ではその記載を入れることは考えていませんでしたが、他都市や他のアンケート事例も参考にしながら、今後検討させていただきます。具体的には、アンケート表紙や 1 ページ目冒頭の案内書き部分など、適切な場所に記載できるよう工夫したいと思います。<br>また、設問中の「のみ」「だけ」といった表現についても、用語の統一を図ります。   |
| 委員長 | アンケートのメリハリについてですが、設問前に「これについて伺います」といった見出しがある箇所は、文字を大きくしなくてもフレーム（枠線）を太くするなど視覚的な工夫の方が効果的ではないかと感じます。特に下の罫線と同じ太さだと目立たないので、フレームの強調を検討してください。こういった細かなデザイン面も見直していただきたいです。<br>また、今回のアンケートは設問数を大きく変更したとのことですが、これによって以前の調査との経年比較が難しくなる可能性があります。この点について、もし何か意図や方針があれば教えてください。これまで私たちは過去との比較や推移を重視してきましたが、今後はどのように継続性を担保していくのか、ご説明いただければと思います。 |

|     |   |
|-----|---|
| 事務局 | <p>今回は設問数を大幅に削減しましたが、これは過去の調査との継続性と、アンケートの分量・回答負担とのバランスを取るため、事務局でも何度も議論を重ねました。この中で、「絶対に継続して聴取すべき項目」「核となる目標値や認知度に関する質問」は極力残しつつ、抜本的に変えたい部分は思い切って改訂しました。やはり回答負担が大きすぎると回答率が下がるという現実的な課題もあり、そのバランスの中で苦慮した結果となっています。</p>  |
| 委員長 | <p>作成にあたってご苦労が多いことはよくわかっていますが、継続性を重視する観点から提案があります。前回のアンケートから「継続して変化を見たい項目」を選定し、今回も同様の設問・聞き方で盛り込むようにすると良いのではないのでしょうか。この形式をとれば、他の項目を大きく削減しても、軸となる継続性は確保できます。</p> <p>また、会議資料等で「この設問は継続して尋ねているもの」「これは新設・再整理したもの」といった区別を明記しておく、今後どの項目で経年の変化を分析していくのかが明確になり、非常に有用だと思います。ご参考になれば幸いです。</p>  |
| 委員  | <p>10 ページの問 18 と問 19 についてです。「セクシャルハラスメントで不快な思いをした」という表現になっていますが、そもそもセクシャルハラスメント自体が許容されるものではないため、「セクシャルハラスメントを受けたことがありますか」という表現の方が適切ではないのでしょうか。現状の設問だと、「不快じゃないセクシャルハラスメントがある」という前提になってしまい、違和感があります。18、19 問目についてご検討をお願いします。</p>   |
| 委員長 | <p>設問や表現についても気を配る必要があります。失礼な印象を与えないかどうか、チェックしましょう。</p>  |
| 委員  | <p>3 種類すべてのアンケートに共通する指摘です。各設問で「特に大きな要因はない」「特にない」という選択肢や「その他」という選択肢があったり・なかったり、また「その他」や「特にない」が 1 番最後にある場合と途中にある場合で順番や有無がばらばらです。設問ごとに意図的に調整しているのか、まだ統一がこれからなのか、そのあたりが気になりました。統一性を持たせるのが望ましいと思いますが、いかがでしょうか。</p>   |
| 事務局 | <p>選択肢の統一が完全ではありませんでした。統一性に配慮して見直します。また、「特にない」「どちらでもない」といった選択肢についてですが、設問によってはこれを選ばれてしまいがちな傾向も想定されました。そのため、回答者の明確な意見を特に尋ねたい場合には、あえて「特にない」などを設けず、選択肢から外したケースもあります。今後も設問ごとに意図を明確にしたうえで、より分かりやすく設計していきたいと考えています。</p>  |
| 委員長 | <p>この選択肢の設定は難しい問題ですね。設問によっては、「その他」と「特にない/ない」の両方を用意している場合や、どちらか片方だけとなっている場合があり、統一した方が良いのか、また「ない」という回答を選ばせるかどうかは悩ましいところです。アンケート設計の観点で、こうした場合に「こうすると良い」といったご意見やご経験があれば、ぜひ共有いただくと助かります。</p> <p>設問ごとに「何が重要だと思いますか」と尋ねる中で、「その他」と「特にない」がどのように使い分けられているかは確かに判断も難しく、悩ましい点です。場合によっては「その他」の選択肢に自由記述で「ない」と書いてもらう方法も考えられると思いますが、どのように整理するのが良いのか、ご意見いただける方がいればお願いします。</p> |

|     |   |
|-----|---|
| 委員  | <p>アンケート設計では、必ず何かを選ばないと次に進めない設定にする場合と、無回答のまま進められる場合があります。オンライン調査では「よくわからない」「特にない」といった選択肢を設けないと、回答者が答えを選ばず次に進めないというケースも想定されます。この点も選択肢の設定と関係してくると思います。</p> <p>例えば、「重要だと思うものを3つまで選んでください」と指示する場合、本当は何も当てはまらない人もいるかもしれません。紙のアンケートなら空欄のまま飛ばせますが、ネット調査だとそうもいかないのが、運用面にも工夫が必要です。また、「どちらでもない」などの選択肢は、回答者が選びやすくなり、本音が集まりにくくなることがあるので、関心の有無や判断を見たい設問では意図的に設けないこともあります。ただ、選択肢に不足がある際のために「その他」を用意するのがよいでしょう。最終的には、国など他機関の調査とも選択肢のあり方を揃えつつ、今回ご指摘いただいたような統一性や自然さも意識して精査していく必要があると考えます。</p>  |
| 委員  | <p>今のご意見に関連して質問があります。たとえば「ハラスメントを受けたことがあるかどうか」「アイデンティティについて悩んだことがあるか」など、センシティブな設問について、ネットで回答を求める際に必ずどちらかを選ばないと次に進めない形にしても問題ないのでしょうか。それとも「答えたくない」といった回答を用意すべきなのでしょう。ご経験を踏まえて、ご意見をお聞かせください。</p>   |
| 委員長 | <p>今の議論に関連して、12 ページの問 26 について質問があります。「あなたは性的マイノリティの当事者への支援として特に重要だと思う市役所がすべき取り組みは何だと思いますか」とあり、この中から最大3つ選ぶ形式になっています。しかし、自分が該当すると思う項目がない場合、「その他」で記入できるようになっていますし、もし内容がよく分からない場合、「わからない」という選択肢を設けるのも1つの方法だと思います。</p> <p>一方、「特になし」という選択肢については、どういう意味合いになるのかが気になっています。たとえば、そもそも市役所がこの分野で何も取り組む必要がないと考えている場合と、自分自身が特に意識したことがない場合が一緒くたになってしまうのでは、という懸念があります。「わからない」と「特になし」の意味の違いをどう区別するか、どこまで細かく分けるべきか分かりませんが、この点がやや不明瞭に感じます。複雑になりすぎる懸念もありますが、ご意見を伺いたいです。「特になし」や「わからない」の中にもさまざまなニュアンスやグラデーションがあると思います。統計学的な観点から「その他」カテゴリーに多様な意見を集約し、その内容を丁寧に分析するという方法も1つの考え方だと思います。ただ、「特になし」と「よくわからない」といった異なるニュアンスの回答が一緒になるリスクもあるため、この点は慎重な検討が必要だと感じました。</p> |
| 事務局 | <p>市職員、事業所アンケートについて説明</p>   |
| 委員  | <p>市職員向けアンケートの10 ページ、問 23 についてです。「あなたは今までに性的指向や性自認に悩んだことがありますか」という設問ですが、「あなたは今までに自分の性的指向や性自認に悩んだことがありますか」とした方が、より明確で分かりやすい表現になるのではと思いました。</p> <p>もう1点、事業所アンケートの6 ページ、問 21 に関する指摘です。「事業所においてワークライフバランスのために必要だと思う取り組み」となっていますが、次ページの問 12 では「ワークライフバランスの取り組みを進める」と表現されています。設問の表現に違和感があり、それぞれの表現が一致した方が良いのではと感じています。</p>  |
| 事務局 | <p>ワークライフバランスに関する設問表現に不統一な部分がありました。「ワークライフバランスのための取り組み」なのか、「良くするための取り組み」あるいは「進めるための</p>   |

|     |  |
|-----|--|
|     | <p>取り組み」など、表現としてどれが適切か再検討したいと思います。ご指摘ありがとうございます。</p>   |
| 委員  | <p>市民アンケートの6ページについてですが、ここでは「仕事と生活の調和」「ワークライフバランス」「仕事と生活を両立できるように」といった表現がそれぞれ混在しています。2000年頃から国も「ワークライフバランス」という言葉を使い始めましたが、現在では「仕事と生活の調和」といった日本語表記が一般的になりつつあります。私自身は「ワークライフバランス」という言葉には「バランスを良くしましょう」という意図が込められていると感じていますが、日本語で文章化すると少し分かりにくくなることもあると思います。また、3種類のアンケートの中でも「仕事と生活の調和」や「両立」、カタカナ表記の「ワークライフバランス」など、使い方や表現に統一感がないようです。例えば「両立」という表現の方が小学校など幅広い層に訴求しやすい場合もあるかもしれませんし、日本語で分かりやすく伝えることを優先した方がいいのではと感じました。</p>  |
| 委員長 | <p>私たちはつい外国語やカタカナ語に頼りがちですが、「仕事と生活の調和」といった漢字の表現の方が分かりやすく、説明もしやすい面があります。3つのアンケート全体で表現の統一感を持たせること、また、設問文を先入観なく公平に読めるよう工夫することが大切だと感じます。スタッフの皆さんには、そうした点にも配慮した設問設計をぜひお願いします。皆さんがしっかりと内容を読み込むことで、こうした意見が数多く出てくるのは非常にありがたいことだと思っています。地道な積み重ねが大切です。</p> <p>また、事業者アンケートの設問番号やデザインについてですが、「伺います」といった案内を入れる場合、太枠で目立たせるのも一案です。設問に通し番号を振るかどうかについても、市民アンケートには番号がありますが、項目ごとに「11個のうちの1つ目です」などと分母を入れる方法も考えられます。こうした工夫は、回答者が全体の進捗を掴みやすくするというメリットもあり、集中力やモチベーション維持につながる場合もあります。ただ、どちらがより適切かは判断が分かれるところですので、バランスを取って検討していただければと思います。</p> |
| 委員  | <p>事業者向けアンケートの間18についてですが、「アライ」という用語について括弧書きで「支援者・理解者」と説明されていますが、この言葉は知っている人には分かる一方で、初めて接する人には分かりにくいかもしれません。他にも難しい専門用語があるようなので、可能であれば各用語に補足説明をつけていただくと分かりやすいと思います。実際、私自身も「アライ」とは何か調べてしまいました。</p>  |
| 事務局 | <p>用語解説については、市民向けアンケートの最後にはまとめて記載していますが、事業者向けではまだ用意していません。例えば3ページの「えるぼし認定」には欄外に説明を追加する予定です。このような形で他の用語についても記載できると思います。</p>   |
| 委員長 | <p>用語解説については本文中ではなく、市民向けのように最後にまとめて載せる形でも良いかもしれません。そのほうが本文が読みやすくなりますし、分からない言葉は巻末を参照してもらうことで紙面もすっきりします。「用語の説明は最後にあります」といった案内を表紙に記載できれば、利用者にとっても分かりやすいのではないのでしょうか。専門家の意見も参考にしつつ、進めていただけると良いと思います。</p> <p>また、QRコードを掲載して用語や内容を深掘りできる仕組みはとても良いと感じました。アンケートを通じて新しい知識を得たり理解を深めたりできるのは大切なことだと思いますので、専門用語の記載や工夫は今後も取り入れていくのが望ましいと考えます。</p>  |

|     |   |
|-----|---|
|     | <p>それでは、ここまででよろしいでしょうか。今後も作業を進める中で新たに気づいた点があれば、その都度ご連絡いただければと思います。本日は、先ほどご案内したように追加の意見を書き込めるシートも配信予定ですので、後ほど事務局から説明をいたします。時間も迫ってきましたので、アンケートに関する本日の審議はここまでとさせていただきます。</p> |
| 事務局 | <p>事務連絡（コメントシート、防災セミナー、駐車券無料処理のご案内）</p>   |
| 委員長 | <p>それでは令和7年度第1回の審議会を終了とさせていただきます。</p>   |
| 閉 会 |   |